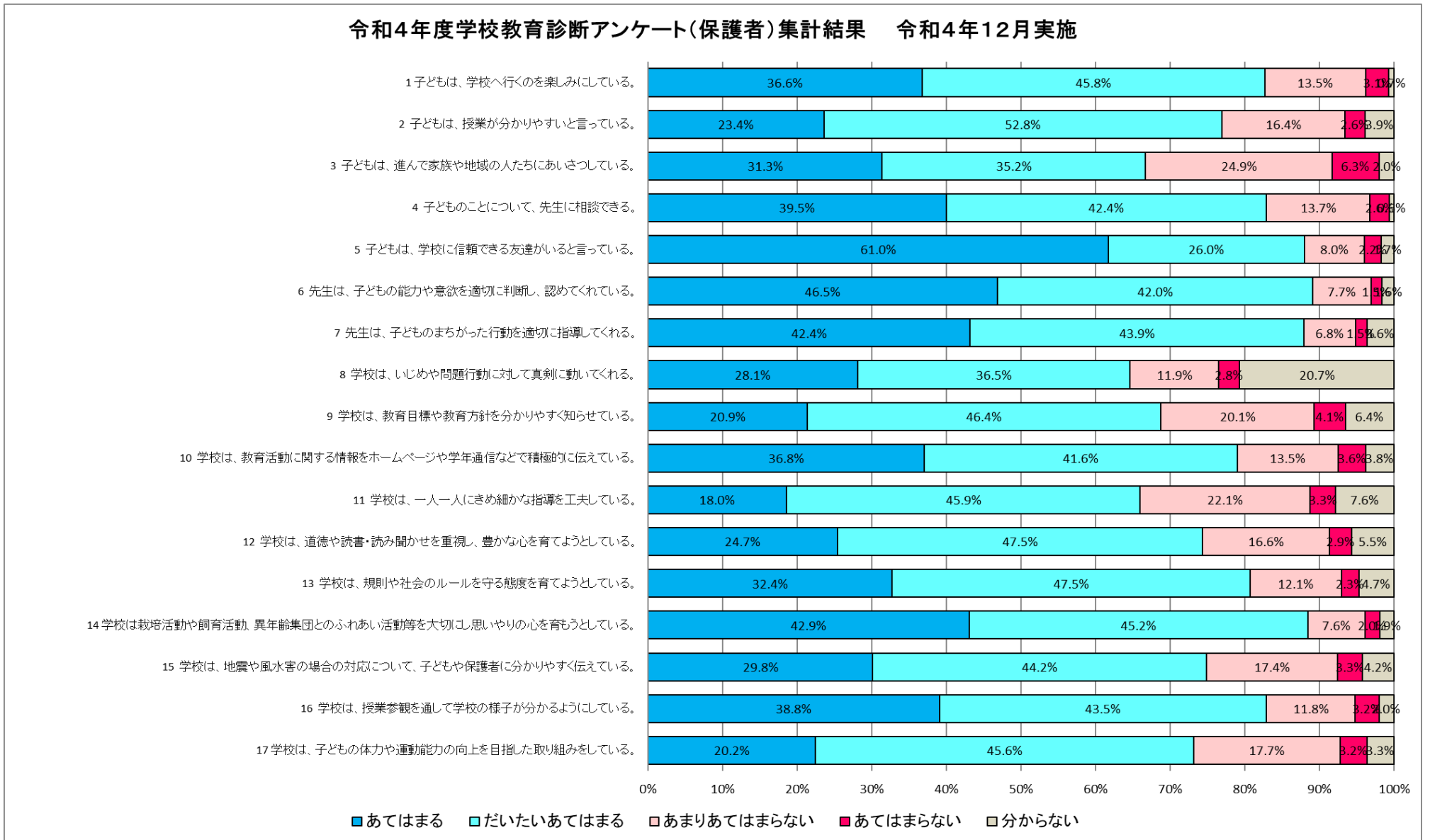


# 令和4年度幸田小学校学校教育診断アンケートの集計結果について

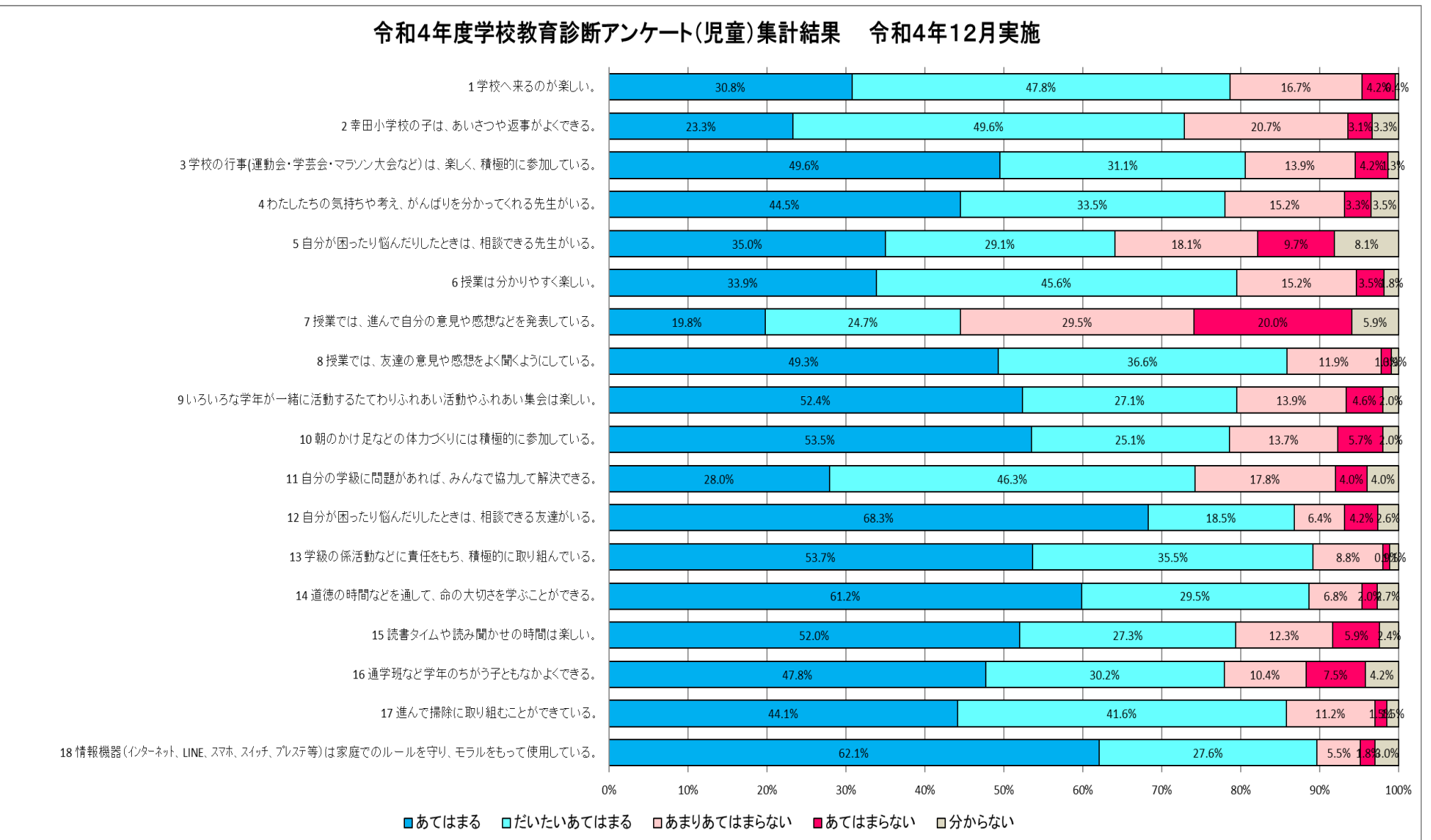
令和5年3月1日

12月にお願いをして実施いたしました幸田小学校「学校教育診断アンケート」の集計結果を、下記の通りお知らせいたします。ご多用のなか、ご協力有り難うございました。この結果をもとに、より充実した教育活動が展開できるよう改善できるところから取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 1 集計結果一覧グラフ（保護者）



## 2 集計結果一覧グラフ（4～6年児童）



### 3 調査結果から見た傾向や特徴 ※ ( ) 内の数値は、昨年度との比較

#### 楽しい学校生活

「1 学校へ来るのが楽しい」と答えた児童は76.8% (-4.1%) で減少、「1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」と答えた保護者は82.4% (+3.9%) と、昨年度よりも増加しました。児童と保護者で真逆の傾向が出ました。徐々に行動制限が緩和され、学校生活も元に戻りつつあります。児童の中には、友達とのかかわりの中、ストレスを抱えている子もいるのではないかと思います。コロナ禍で失われた2年間を取り戻すことも大事ですが、児童の将来の成長を見据え、「今できること、新しくできること」をよく考え、今後も全職員で、「つながり」と「温もりのある学校」=幸田小ファミリーを築き上げていきたいと思っています。

#### 学ぶ意欲を高める授業

「2 子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」と回答している保護者は76.2% (+3.2%) で昨年度よりも増加しています。「6 授業が分かりやすく楽しい」と回答している児童は79.5% (-4.0%) と減少しました。「7 授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している」と回答している児童は44.5% (-11.3%)、「8 授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている」と回答している児童も85.9% (-7.1%) と、いずれも昨年度よりも大幅に減少しました。感染状況を見極めながら、ペアやグループ等の話し合い活動を少しずつ取り入れています。2年間のブランクは大きく、かかわり合いの仕方が分からない児童が増えてきているのではないかと考えられます。一方、かかわり合いの授業を行ったことがない教員も増えてきているのも事実です。今年度も教師力向上のために、様々な研鑽を積みました。今後も、丁寧な子ども理解と個別指導に努めると共に、タブレット端末を効果的に活用するなど、十分な学びの高まり・深まりに結び付けていく授業づくりに努めていきたいと思っています。併せて、児童が自分の考えに自信をもって表現できるように支援していきたいと思っています。「11 学校は、一人一人に応じたきめ細かな指導を工夫している」と回答している保護者は63.9% (+14.2%) と大幅に増加しました。今後も児童一人一人の思いを感じ取り(汲み取り)、一層の信頼を得られるように努力していきたいと思っています。

#### 基本的な生活習慣

「2 幸田小学校の子は、あいさつや返事がよくできる」と回答した児童は72.9% (-12.1%) と、大きく減少しました。一方「3 子どもは、進んで家族や地域の人たちにあいさつしている」と回答している保護者は66.5% (+5.5%) でありました。今回、大幅に児童の意識が変わりました。企画委員会発案であいさつ運動に取り組んだことで、「まだまだあいさつができない、もっと頑張りたい」といった意識の高まりの結果と捉えています。登下校時のあいさつ、返事、声の大きさ等も含めて、さらに児童の意識を高め、相手に思いの伝わる、爽やかなあいさつのできる児童を育てていきたいと思っています。

#### 一人一人を大切にされた教育活動・いじめへの対応

「12 自分が困ったり悩んだりした時は、相談できる友達がいる」と回答している児童は86.8% (+0.5%) と例年同様、高い数値を示しました。一方「4 子どものことについて、先生に相談できる」と回答している保護者は81.9% (+10.9%) と大きく増加しました。「5 自分が困ったり悩んだりしたときは、相談できる先生がいる」と回答している児童は64.1% (-5.9%) と減少しました。子どもたちの心に寄り添い、児童が悩みや苦しみを一人で抱え込むことなく、気軽に相談できる雰囲気・体制作りに努め、信頼される教職員集団を目指していきたいと思っています。「6 先生は、子どもの能力や意欲を適切に判断し、認めてくれている」と回答した保護者は88.5% (+7.0%)、「4 わたしたちの気持ちや考え、がんばりを分かってくれる先生がいる」と回答した児童は78.0% (-4.9%) でしたが、保護者、児童とも高い水準を維持していま

す。一方で、認められていない、分かってもらえていないと感じている児童も少なからずいることが分かります。教職員一人一人の、児童の変化に気づき、見つけ、見抜く力をさらに高め、児童の良いところを伸ばす指導を大切にしていきたいと思います。「8 学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる」と回答した保護者が64.6% (+6.5%) と、昨年度より増加しました。生活アンケートや個別面談の実施、いじめ・不登校対策委員会や週1回の情報交換会、学期に1回の専門機関の職員を交えての事例検討会の実施等、全職員で情報を共有し、早期に対応することを心がけてきました。これまでの活動をさらに充実させると共に、日常生活における児童のわずかな変化にいち早く気づき、問題を未然に防ぐ等、保護者や児童から信頼される学校・学級づくりに努めていきます。

#### 開かれた学校

「9 学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている」と回答した保護者は、67.3% (-1.6%) と微減、「16 学校は、授業参観を通して学校の様子分かるようにしている。」と回答した保護者は、82.3% (+40.4%) と、大幅に増加しました。学校の教育方針を理解して頂くためには、実際の子どもの学びや生活の姿を見て頂くことが最善と考えます。来年度も感染対策を取りながら、分散授業参観の実施、ホームページや学年・学級通信等を通じ、学校の教育活動の様子をお伝えする機会を増やす等、保護者のより一層のご理解とご協力を得られるよう努力をしていきたいと思っています。

#### 心の教育

「12 学校は、道徳や読書・読み聞かせを重視し、豊かな心を育もうとしている」と回答した保護者は72.2% (+3.1%)、また「14 道徳の時間などを通して、命の大切さを学ぶことができる」と回答している児童の割合は90.7% (-1.7%)、「15 読書タイムや読み聞かせの時間は楽しい」と回答している児童の割合は79.3% (-2.1%) となっています。児童の数値はやや減少しましたが、子どもたちは、読書タイムや読み聞かせの時間をとても楽しみにしている様子が見られます。今後も読書タイムや読み聞かせの時間を大切にしていくとともに、一層、道徳の時間を重視し、心の教育の充実努めていきたいと思っています。「17 進んで掃除に取り組むことができている。」と回答している児童が85.7% (-2.0%)、「13 学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。」と回答している児童が89.2% (-2.6%) と割合として高く、学級内において児童一人一人が役割を持ち、責任を果たしていることも結果として出ています。しかし、「11 自分の学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。(児童)」と回答した児童は、74.3% (-4.6%) と少し割合が減少しています。子どもたちの責任感、意欲を大切に育てながら、児童が自分たちの手で問題を解決していける自治的能力を育てたいと思っています。「9 いろいろな学年と一緒に活動するたてわりふれあい活動やふれあい集会は楽しい」と答えた児童は79.5% (-5.1%) となっています。わずかな機会しかありませんでしたが、ふれあい集会、縦割りふれあい活動を通して異年齢集団のかかわりを大事にしてきた成果と言えます。「16 通学班などの学年のちがう子どももなかよくできる」と回答した児童は78.0% (-3.0%) となりました。通学班での子ども同士のかわり合いは、安心・安全な登下校の実現に大きく影響を与えます。通学班等の日常の活動において良好な人間関係を保つための適切な指導と支援を続けていきたいと思っています。また来年度は、保護者、地域の皆様と協力し、『スクールガード』を結成し、子どもたちの登下校の様子を見守っていきます。

#### 体力づくりへの取組

「17 学校は、子どもの体力や運動能力の向上を目指した取り組みをしている」と回答した保護者は、65.8% (-7.6%)、また、「10 朝のかけ足などの体力づくりには積極的に参加している」と回答した児童も、78.6% (-5.1%) と、いずれも減少しています。コロナ禍においても、体力づくりの時間と場所を工夫・確保し、児童の体力向上に努めていきたいと思っています。